

少し深入り 文化のみちQ&A－3

Q：いつ頃から、文化のみちに個人の邸宅が立地したの？

A：正確には、把握が難しいのですが、櫻井家住宅：1905年、伊藤家住宅：1910年代、大森家住宅：1916年頃、豊田（利）邸：1918年頃、大喜多元市長の旧邸：1920年、二葉館：1920年頃、豊田（佐）邸：1923年、春田邸：1924年、槿木館：1926年頃ですので、1900年代中頃から1920年代中頃に造られた建物が多いようです。

Q：名古屋市役所は2014年、国の指定文化財になったそうですが、いつ頃建てられたのですか？

A：市本庁舎は、1933年（昭和8）に建てられました。

ちなみに、愛知県庁：1938年（昭和13）、名古屋陶磁器会館：1932年、筒井小学校1936年、東海学園講堂1931年、金城学院高等学校栄光館1936年、名古屋市市政資料館：1922年、昭和初期に建てられたものが多いです。

Q：近代化の歩みを端的に示すとどういうことになるの？

A：建造物で極端に分類しますと、明治時代（1868～1912年）は工場の時代、大正時代（1912～1926年）は企業家邸宅の時代、昭和初期（1926～1940年頃）は公共的施設の時代とでもいいでしょうか。

Q：どうして、このような流れが生じたの？

A：難しい質問ですが、まず、文明開化で工場が立地する。利益が生じ、さらに工場が立地し、土地の供給量が下がり、地価が上昇する。企業家は所得が増える。ある程度、地価が上がると工場は、郊外に立地する。

次に、商取引が活発になり、企業家達は、商取引施設も兼ねて邸宅を建てる。この時代は、ホテルや会議場、オフィスがなく、個人の邸宅で行っていたようです。

さらに、工業化が進み、地区全体では、仕事を求めて人が集まる。人口が増え、行政機関や学校等の施設が拡充、強化するといった流れが生じたのではないのでしょうか。